

〈 社会人の窓 16 〉

新安治川水門アイデアコンペに審査委員として関わって

淀川愛好会相談役 澤井健二

本年夏から秋にかけて、大阪府による新安治川水門アイデアコンペが行われ、私はひょんなことからその審査委員の一人として関わることになりました。

安治川水門は、木津川水門、尻無川水門と共に、大阪市を高潮から守る三大水門として、昭和 45 年（1970 年）に建設され、防災機能とともに、美しいアーチ型水門として大阪における河川河口部の景観を形作ってきました。しかし、建設から 50 年を経た今日、老朽化と共に、新たに要求される津波対策機能を付加するために、近々改築されることになっています。その中で、安治川水門については、水門の機能だけでなく、周辺の街づくりや、大阪市内の河川軸の一環としての役割を担うことから、広く市民のアイデアを聞こうということで、今回のアイデアコンペが企画されました。

私は以前から大阪府の「私の水辺」推進協議会の副会長として、水辺の保全と活用に関して、主に利用者としての立場から行政への要望や意見を述べてきましたが、今回、アイデアコンペの審査委員にならないかという誘いを受け、思わず引き受けてしまいました。

コンペには 9 件の応募があり、1 次審査をパスした 6 件の作品について、公開のプレゼンテーションを経て、先日、2 次審査の結果が公表されました。最優秀賞は、川村宣元氏（川村宣元建築設計事務所）の「海の大手門」という作品で、「安治川流域の歴史や文化特性に力点を置いた基本コンセプトを明確に示し、コンセプトに基づく水門や管理棟等のデザイン、各施設の位置関係や機能、構造、仕様の提案が具体的である。水域における船舶と護岸のスケールを関連付ける視点、蔵屋敷船着場を模した川の駅のデザイン等がユニークであり、大胆さと現実性を兼ね備えたランドスケープが地域全体の活性化につながることを期待させる。」という高い評価を受けました。

審査員特別賞には、私たちとつながりの深いメンバーである木村昌弘氏（大阪大学工学部非常勤講師）、岡崎善久氏（岡崎善久建築設計事務所長）、加藤創一氏（近畿大学総合社会学部総合社会学科環境・まちづくり系）、河西茂行氏（地球デザイン研究所長）からなる「安治川げんきプロジェクトチーム」の「安治川いいであいプロジェクト」提案書が「治水・維持・景観・利用・気候変動への対応等から総合的な比較検討を行い、水門形式を提案している点が優れている。現水門を残し、津波・高潮ステーションと一体的に運用し、防災教育等を行う点なども魅力的に感じる。」として選ばれました。

審査結果は、大阪府のホームページに掲載されています。



左：「海の大手門」、右：「安治川いいであいプロジェクト」イメージ図（いずれも大阪府ホームページより）

イベント報告

第13回いい川・いい川づくりワークショップ in 中部

今年のいい川・いい川づくりワークショップは、10月2日(土)・3日(日)の2日間に岐阜市で行われました。私たちエコシビル部は、現地へは行かず、zoomで参加をさせていただきました。本番では、活動が新型コロナウイルスの関係であまりできていないことや、コロナ禍で入部した後輩が今後どのように部活を進めたいのか、何がしてみたいのかなどを、全国の河川に携わっている方々と意見を交換しました。普段は活動の制限で、部員や普段お世話になっている市民の方としか交流がなかったのですが、この活動を通して、老若男女問わず全国でいい川づくりに向けた活動をされている方々がたくさんいらっしゃることを実感し、貴重な機会となりました。(Y・H)



ワークショップ中のエコシビル部の学生

淀川愛好会 秋のイベント

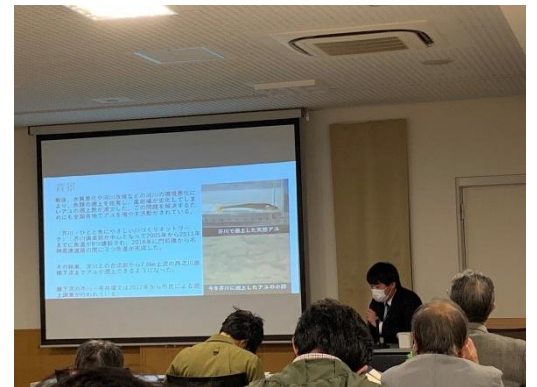
10月16日(土)、京都府の日野で淀川愛好会の秋のイベントであるハイキングに参加しました。午前には澤井先生のガイドで日野南山の中腹まで登り、松茸探しを行いました。今回は残念ながら松茸を見つけることが出来ませんでしたが、お昼には日野野外活動施設で日野川水辺の会の方々に松茸料理を振る舞っていただきました。昼食後、鴨長明方丈石、立位稲荷神社、かすがのえんこども園を訪れ、それぞれの場所の歴史や生い立ち、その場所にまつわる人物の話を教えていただき、とても貴重な経験することが出来ました。(D・K)



ハイキングの様子

第11回 川の恵みを活かすフォーラム・第1部 報告会

10月24日(日)に京都教育文化センターにて京の川の恵みを活かす会主催、第11回川の恵みを活かすフォーラムが開催され、講演と報告があり、講演では「大阪ベイエリアから探る天然アユの生きる道」や「淀川の天然アユの生まれ育ちを探る」を聞き、アユに対しての考え方や活動内容を把握できました。報告では初めて発表時間を考えながら資料を作成し、公式の場で発表したのですが、早口になりながらも無事成功することができ、とても嬉しく思いました。報告会では桂川や鴨川、木津川や淀川の調査報告もあり、河川に対しより多く見聞を広める機会になりました。(H・K)



発表中の様子

第11回 川の恵みを活かすフォーラム・第2部 食味会

10月31日(日)に、京都市日野野外活動施設にて川の恵みを活かすフォーラムの第2部として食味会が行われました。天然アユと養殖アユの塩焼きの味比べ、鴨川産コイのお造り、淀川産天然ウナギの蒲焼き、ビワマスのお造りなどが振る舞われました。子供からお年寄りまでたくさんの人が集まり、とても賑やかな会になりました。普段の生活では行えないようなアユの串刺しなどを体験して、苦戦しながらも皆さん楽しそうにされているのが印象的でした。(O・S)



アユの塩焼き

天若湖アートプロジェクト「あかりがつなぐ記憶」

11月7日（日）に、京都府南丹市日吉町にある天若湖で行われました。昨年はオンライン開催でしたが、今年は技術継承という形で現地へ出向き、沢田と楽河の2つの集落のあかりを浮かべました。9月より摂南大学内でケーブル作成を行い、10月には現地下見に行きました。当日は午前にあかりの設営を行い、改めて日吉の良さを知ることができました。初めて実際に見たエコシビル部員が多く、感銘を受けていました。今回は部員のほとんどが未経験の中で行われ苦戦することも多かったですが、様々な支援により技術継承を行うことができ、良い経験となりました。（H・Y）



あかりが灯った天若湖

茨田イチョウまつり

11月21日（日）に寝屋川市点野、茨田樋遺跡水辺公園にて、茨田イチョウまつりを行いました。茨田樋遺跡水辺公園の大きなイチョウの木の下で行われました。前日に会場の設営を行い、当日には地域の方を中心とする参加者が、Eボート体験や、やじろべえ工作などのブースを楽しんでいました。そのほか、大阪府の河川担当者や、大阪工業大学の学生による発表があり、とても興味深いものとなりました。幅広い年齢層の参加者が集まり、感謝のお言葉を数多くもらいました。また、地域住民の方々にとっても愛されたお祭りであると、改めて認識しました。（S・R）



Eボート体験の様子

おもしろ日吉・観光ワークショップ

12月5日（日）、南丹市日吉町のスプリングスひよしで、天若湖アートプロジェクト実行委員会と日吉町観光協会の共催で、観光に関するワークショップを行いました。ファシリテーターは天若湖アートプロジェクトの委員でもある京都産業大学教授の鈴木康久（みちひさ）先生で、参加者は地元住民や摂南大学・京都産業大学の学生も含めて合計29名でした。コロナ禍で約2年間、天若湖アートプロジェクト実行委員会と地元住民との交流ができていませんでした。今回のワークショップは、今後日吉をどう盛り上げていくかについて、関係者が集まり話し合いました。地元の方々の今後こんなことをしたいという熱い想いをお聞きし、連携して新たな企画が生まれそうな活発な議論ができました。（I・Y）



ワークショップの様子

イベント案内

淀川愛好会 総会 2022

日時：2022年2月26日（土）11時～12時

場所：摂南大学寝屋川キャンパス1号館3階 都市環境工学科会議室

第6回 近畿河川フォーラム & 第24回 淀川討論会 & 第16回 水防災セミナー

日時：2022年2月26日（土）14時～17時

場所：摂南大学寝屋川キャンパス12号館3階 1233教室 オンラインでの参加も可

申し込み締め切り：2022年2月19日（土）

私の卒業研究

出来 健志郎

私は摂南大学の生態環境学研究室（石田ゼミ）に所属しています。私の卒業研究では、淀川点野地区の4つのワンドに生息する魚類の調査をしています。調査は2種類あり、5月から9月の間、1カ月ごとに稚魚を採集する調査と、季節ごとに地曳網を用いて多数の魚類を採集する調査を行っています。これらの調査でワンドに生息する魚類を把握することによって、それぞれのワンドが魚にとって棲みやすい環境なのか、在来種の保全等の目的を果たしているのかなどといったことを調べています。

私は元々生物に興味があつて石田ゼミを志望したので、このように実際に現地に行き、調査をし、とても興味深く面白い経験だなと感じながら日々研究を進めております。

（摂南大学理工学部都市環境工学科4回生・就職先：奥村組土木興業株式会社）

新刊書籍紹介



本書は、摂南大学で実施された分野横断型研究プロジェクトである Smart and Human 研究助成「淀川水系に関する総合的研究—多様性に基づく発展ダイナミズムの研究」の3年間の研究成果に基づき出版されました。総勢14名の摂南大学の教員が執筆しています。淀川流域全体を俯瞰し、経済、文化、社会、環境を横断的に、SDGsの各目標と結び付けて解説した初の書籍となっています。扱っているのは淀川流域というローカルな地域ですが、ここから地球の未来について考えようという趣旨になっています。こう書くとなかなか難しいように思われそうですが、大学1年生の教養科目でも使えるようにと、一般の方にも読みやすい内容になっています。(I・Y)

「SDGsで読み解く淀川流域」

著者：後藤和子・鳥谷部 編

出版社：昭和堂 発行：2021年10月15日

ISBN 978-4-8122-2102-0 定価：本体2,900円＋税

編集後記

10月に緊急事態宣言が解除されると多くのイベントが各地で開催され、学生諸君がイベントに参加した記憶と記録の結果、美しい写真と素晴らしい内容の報告で賑やかな96号となりました。これは嬉しいことです。

12月に入ると、世界の77か国で感染拡大が確認され、新型コロナウイルスの変異株の「オミクロン株」が日本にも上陸しそうです。オミクロン変異ウイルスによってイベントが再び縮小される心配があります。そして、コロナ禍で見逃してならない記事が一つあります。現地時間の12月10日夜からアメリカを襲った「冬の竜巻」であります。88人の死亡が確認され、いまだに多くの行方不明者があります。この冬の巨大竜巻を気候変動との関連でどのようにみるかは、少し時間を要すべき問題ですが、日本でも都市開発が進むに従い、森林が伐採されると積乱雲による竜巻の発生件数が今後多く見られる可能性があります。気候変動との関係がはっきりとはしませんが、地球温暖化による森林破壊は、気候変動の一つの側面として存在しております。

編集長 岡崎善久（岡崎善久建築設計事務所）

淀川愛好会事務局：〒572-8508 寝屋川市池田中町17-8 摂南大学理工学部都市環境工学科 石田研究室内

TEL/FAX：072-839-9125

HP：<http://www.setsunan.ac.jp/~civ/teachers/yodoric/>

E-mail：ishida@civ.setsunan.ac.jp